

日本語教育を学ぶ学生のためのHoT-JeT合宿2025

私たちが見た日本語教育の現場と魅力 ～友ランゲージアカデミー札幌校～

2025年9月10日～11日、北海道・東北地域の大学で日本語教育を学ぶ大学生・大学院生8名が札幌に集まり、合宿を行いました。合宿では、札幌市内にある日本語学校2校を訪問させていただきました。学校や授業の様子を見学し、講師の方々に直接お話を伺うことで、日本語教育の実際の現場とその魅力を学ぶ貴重な機会となりました。本記事では、その体験を学生の視点からご紹介します。

学校の概要・特色

友ランゲージアカデミー札幌校

友ランゲージアカデミー札幌校は、友ランゲージグループの中の一校です。同グループは2003年に東京校を開校し、現在では日本国内外で計5つの日本語学校を運営しています。2025年には文部科学省認定の日本語教育機関として大阪校が開校しました。

今回訪問した札幌校は、2018年に開校し、6年目を迎えました。2025年9月時点での学習者数は103人で、レベルごとに8つのクラスに分かれています。主に午前は初級、午後は中級となっており、中級レベルでは日本語を使ったグループワークなど、活動的な授業が多く行われているそうです。

多国籍であることが特徴的で、ミャンマーやネパール出身の学習者が約半数を占める一方、アジア・欧米・南米など、多様な地域からの学習者を受け入れています。このような多様な母語の学習者が集まる教室環境では、「学習者の共通語が日本語になる」という良さがあると伺いました。実際に、授業などで母語の異なる学習者同士が日本語でコミュニケーションをとっている様子を見ることができました。

また、学校のすぐ近くに寮があり、安心した生活を支える環境が整っています。



授業見学

授業見学では初中級、中級クラスを見学しました。授業内で使用していた教材は『できる日本語』（アルク、2011年出版）でした。

実際に使える「文法」をめざしてー初中級クラスの授業見学よりー

初中級クラスでは、使役受身の文法がテーマの授業を見学しました。まずは復習として文法の確認を行っていました。先生は、スライドとホワイトボードを併用し、イラストを指したり、途中まで言いかけてたりして、文法を学習者から引き出していました。学習者自身に既習文法を使った文を発話させ、つまづいたポイントを適宜確認しつつ、ヒントを出しながら練習を進めていました。さらに、その文法を使って話すときの「気持ち」も丁寧に教えていたことが印象的でした。実際の会話で文章を自然に作る力を育てていると感じました。問題を解いて周りの学習者同士でチェックをする際には、笑顔で学びあう様子が見られました。



学習者主体で活動的な学びをー中級クラスの授業見学よりー

中級クラスは、学習した単語や文法の復習が主な内容でした。単語の復習では、先生がジェスチャーとやさしい日本語を用いて確認していたことが印象的でした。文法の復習では、文型に学習した単語を当てはめ、繰り返し声に出していました。ここでは、教師主体ではなく、学習者が主体的に話す機会がとて多と感じました。最後に、4・5人のグループに分かれ、1人が今回の授業で習った単語のカードを引き、その単語について説明し、他の人がその単語を当てるゲームを行いました。例えば、「津



波」のお題では「海から波が来る」と説明していました。これは、単語の意味も確認しながら自身の力で説明することも求められる練習だと感じました。学習者は、終始明るく積極的に授業に参加していました。

講師インタビュー

「学習者を見る」ー日本語教師は何を意識して学習者と向き合うのかー

オンラインでも日本語を学べる現代に、わざわざ日本語学校で学ぶ意義はやはり「コミュニケーション」、そうO先生は語ります。学習者を見ること、学習者が話しやすい雰囲気を作ることを心掛けているそうです。学習者にきちんと伝わっているか丁寧に確認する。学習者の話を「ちゃんと聞いている」と態度で示す。学習者の名前をしっかりと覚えて、指名するときは必ず名前を呼ぶ。様々な工夫をしながら、日々学習者一人ひとりと向き合い、密な関係を築く姿がうかがえました。一方で、日本語教師という立場上、「正しさ」も疎かにしてはいけないとも語ります。そのバランスを取るために、授業目的に応じて、文法に焦点を当てる時・気にせず話してもらう時のメリハリをつけているそうです。そんなO先生に日本語教師をしていて楽しかったことを尋ねると、「日々の授業で更新されていく」という回答が一番出てきました。毎日が小さな面白い・楽しいの連続なのだろうと想像しました。お話を通して、「学習者とのコミュニケーション」を常に意識されており、それ自体がやりがいに繋がっていることがわかりました。

「新しい考え方に出会える」ー日本語教師の魅力とはー

友ランゲージアカデミー札幌校で教えるN先生に「ズバリ、日本語教師の魅力とは？」と伺ってみました。N先生が挙げた魅力は、「いろいろな国の人と関わること」。同校には、アジアやヨーロッパ、南米など多国籍の学習者が集まっており、日々の授業を通して多様な文化や価値観に触れることができます。その中で、日本人として当たり前だと思っていた考え方が覆されることも多く、N先生自身も「自分の考え方が変わった」と話してくれました。特に印象的だったのは、学習者から学んだ「なんとかなる」という前向きな考え方。異国で暮らす学習者たちのポジティブな姿勢に刺激を受け、自分も柔軟に物事を捉えられるようになったそうです。また、授業を受ける学習者たちが日本語を使いながら楽しそうに学んでいる姿や、できなかったことができるようになった瞬間を間近で見られることも、日本語教師ならではのやりがいの一つであるそうです。国内にしながら世界中の人々と深く関わり、文化を肌で感じられる。そんな経験ができるのは、日本語教師ならではの感覚だと感じました。

訪問の感想

座学だけでは想像することが難しい実際の授業風景を初めて間近で見学することができて、とても良い経験になりました。自分たちが気になっていた、リアルな日本語教員の方々の話を聞いたり、日本語教育の現状を知ることによって、より日本語教員の仕事のイメージが明確になったと感じました。常に学習者たちの反応や様子などを第一に気にかけて授業を行う先生たちを見て、私自身も将来、学習者にとって頼りがいのある日本語教師になりたいと思いました。

K.S. (弘前学院大学)

日本語教師として、特に「学生の成長を身近で感じられる」ことに大きな喜びを感じているという言葉が一番印象に残りました。授業を通じて学習者が新しい言葉を使ったり、自信を持って発言する姿を見ると、自分の教えが実を結んでいると実感する事がやりがいに繋がっていると感じました。そんな職業が日本語教師であり、私の人生にとって大きな意味を持つと考え、日本語教師を目指す良いきっかけになりました。

G.H. (東北学院大学)

日本語教育について、マクロな視点とミクロな視点の両面について、リアルな声や想いを聞くことができました。社会や制度の大きな影響を受けて変化している一方で、その最前線で様々な学習者と関わっていくという側面も持っていることは、日本語教育の世界の大きな魅力だと気づきました。インタビューでも、「日本語教師に向いているのは変化に強い人」というお話があり、心に残っています。今後も広い視野を持って日本語教育に関わりたいと強く感じました。

M.T. (東北大学)

今回の合宿を通してたくさんの知識と経験を得ることができました。日本語学校見学やインタビューで実際の授業の様子や日本語教師の一日、授業で行っている工夫など、どれもためになることばかりでした。また、自分と同じく日本語教育に関心を持っている同志と出会い、たくさん話し合いながら交流することができて、とても良い刺激を受けました。改めて、日本語教師になりたいという気持ちが強くなりました。

F.O. (北海道教育大学函館校)